

第150回簿記検定試験
3級 出題の意図・講評

[第1問]

(出題の意図)

1. 土地の取得に関する問題です。付随費用を取得原価に含められるかを問いました。
2. 仕入勘定で計算された売上原価という費用を、損益勘定に振り替える問題です。貸借が正確に記入できるかを問いました。
3. 現金過不足の問題です。まずは現金が不足していたのか、そうでないのかを正確に把握できるかを問いました。
4. 建物の改築と修繕の問題です。資本的支出を資産に、収益的支出を費用にできるかを問いました。
5. 収入印紙の問題です。収入印紙の購入・使用は印紙税の支払いとなることを理解しているかを問いました。

(講評)

全体的によくできていました。ただし、問題文をよく読まずに解答した答案が多数見受けられました。思い込みで判断せず、よく確認して解答するように心がけてください。

1. 正答率は高かったです。ただし、付随費用の処理を間違えている答案も見受けられましたので、学習時に確認しておいてください。
2. 貸借を逆にしてしまう答案が多く見受けられました。損益勘定への振替えの問題は頻出ではありませんが、基本的な問題と言えますので、期中取引と同様学習しておいてください。
3. 問題文をよく読まずに一部貸借を逆に処理してしまった答案が多数見受けられました。現金過不足に関する基本的な問題ですので、雑損になるのか雑益になるのかを適切に処理できるよう学習しておいてください。
4. 正答率は比較的高かったです。仕訳問題では初出ですが、同様の論点で出題した過去問もありますので、基本的な処理の違いを学習しておいてください。
5. 消耗品と混同している答案が見受けられましたが、概ね正答率が高かったです。

[第2問]

(出題の意図)

補助簿の選択を中心とした基本的な問題です。

問1では、各取引の記帳の際に用いられる補助簿について理解しているかを問いました。各取引について仕訳をし、どの勘定科目が増減するかを把握すれば、解答を導くことができます。

問2では、純売上高の意味（総売上高との相違）を把握しているかを問いました。6月中の取引を仕訳し、総売上高から返品高を控除すれば、解答を導くことができます。

問3では、商店別の売掛金の増減を正確に集計できるかを問いました。まず、総勘定元帳における売掛金の残高と、売掛金元帳における商店別の売掛金残高をすべて合計した額が一致することを用いて、月初の箱根商店に対する売掛金の残高を求めます。次に、この月初残高に6月中の箱根商店に対する売掛金を加減すれば、解答を導くことができます。

(講評)

本問は、補助簿の選択を中心とした基本的な問題であり、全般的な正答率は高かったです。

問1では、7日と12日の商品売買取引において、商品有高帳を選択していない答案が多く見られました。商品売買取引（返品含む）では、商品の受入れと払出しが生じるので、商品有高帳にも記入することに注意してください。

問2では、総売上高と純売上高を混同している答案がありました。売上原価や売上総利益を求める際にも必要なことですので、総売上高と純売上高、総仕入高と純仕入高の相違を学習しておいてください。

問3では、6月1日現在の箱根商店に対する売掛金残高を求められなかったことに起因する誤答と、6月中の取引だけを集計して6月1日現在の残高を加算していないことによる誤答が多かったです。総勘定元帳における売掛金勘定の残高と、売掛金元帳における得意先別の売掛金残高をすべて合計した額が一致するという関係を学習しておいてください（この関係は、買掛金についても成り立ちます）。

[第3問]

(出題の意図)

1ヶ月分の取引に関する資料から残高試算表を作成する問題です。項目ごとに資料がまとめられており、重複する取引があります。問題の指示に従ってこれらの重複取引を適切に処理することが求められます。商品を購入するにあたって、手付金を支払っていますが、この処理とその後の仕入時の処理もポイントになります。

(講評)

重複する取引がありましたが、取引量がそれほど多くないためか、高い正答率でした。しかしながら、旅費の仮払いに関する処理および前期に発生した売掛金の貸倒れに関する処理に関する誤答が比較的多く見られました。試算表の問題を正しく解答するためには、取引の仕訳を正確に行うことが必要であり、基本的な取引の仕訳の学習が大切になります。

[第4問]

(出題の意図)

基本的な伝票の起票を問う問題です。(1)は仕入れにあたり一部を現金、残額を掛けとする取引について2つの起票方法があることを問うものであり、「()伝票」の科目欄に買掛金が入っているところから「振替伝票」の起票内容がわかります。(2)については、送料の処理に加えて「(③)伝票」という形で伝票名も答えられるかを問う問題です。

(講評)

(1)は②の金額間違いが多く見られました。本問では買掛金以外は空欄でヒントが少ないのですが、2つの起票方法を理解していれば正答を導けるはずですが、また、(2)は③の伝票名の間違いおよび⑤の金額間違いが見られました。伝票名は③伝票に記録するのが送料の現金支払いであるため1つに限定でき、そこから⑤の金額も正答を導けます。今回間違えた受験者の中には通常の仕訳問題であれば正答できた方もいるかもしれませんが、伝票の問題はパターンを身につけるのではなく、柔軟に解答できることが期待されます。

[第5問]

(出題の意図)

精算表の作成から決算整理を問う問題です。過去にあまり出題がされていない修正項目として1を踏まえた6、2および4があります。

1は返品処理となりますが、これによって期末商品棚卸高も変動するため、売上原価を算定する際の取り扱いを6で明示しました。2は小口現金について定期的な報告・補充とは別に決算目的で記録を行うことや、そもそも定額資金前渡制度を採用しないこともあるため、使用のみの記録を行う出題としました。4は保険料の中途解約のため、前払費用で未経過分を処理するのではなく解約後の期間に対応する金額を問題文の指示にしたがって処理することになります。いずれも、取引そのものは普段の学習で見慣れないものであっても、取引を理解して指示どおりに処理を行えるかを問うものです。

(講評)

保険料の返金による未収入金の処理に戸惑った受験者が多かったようです。ここ最近では出題実績がなく、ほとんどの方が初見の問題と思われそうですが、指示どおりの仕訳をすれば解ける問題であり、応用力が求められるものではないはずです。3級受験者として想定しているレベルの企業経理担当者であっても、処理方法の説明があれば指示どおりにできることは必要であり、落ち着いて解答することが期待されます。

また、手形借入金の利息の間違いも見受けられました。短期間の借入で用いられる手形借入は、返済期日に手形に記載した額面金額を返済するものであるため、借入時に額面金額からあらかじめ利息を差し引いた額を受け取る利息前払いが多くなります（例えば、手形額面が¥1,000,000ならば返済期日に¥1,000,000を支払うため、利息は借入時に差し引く前払いとなる）。利息は期間計算に加えて後払い・前払いの両方がありますので、それぞれの方法を理解しておく必要があります。